

日本一の米づくりは健苗育成から！

丁寧な種子予措で良好な出芽揃いを確保！！

山形おいしさ際立つ！米づくりプロジェクト本部

【気象の状況】

4月8日発表の東北地方の1か月予報では、向こう1か月（4月10日～5月9日）の気温は平年並みか高い見込みで、降水量と日照時間はほぼ平年並みの見込みです。

◎当面の技術対策

適期に田植えができるようにスケジュールを立て、慌てず、丁寧な種子予措、播種を行い、健苗育成へ向け、良好な出芽揃いを確保しましょう。

（1）浸種の積算温度をしっかりと確保！

浸種の水温は10～15℃を確保するように努めます。特に、これから種子予措の作業に入る方は、種子消毒や浸漬開始時の水温が10℃以下にならないように注意しましょう。また、令和2年産の種子は、登熟期間が高温で経過したことから、休眠が深い場合があります。「つや姫」や「雪若丸」「はえぬき」等は積算水温120℃を目安に十分浸種を行い、吸水不足や吸水ムラにならないようにしましょう。

（2）催芽は芽切れをしっかりと確認！

催芽は、種籾の最適発芽温度（30～32℃）で概ね20時間を目安に行いますが、催芽ムラは、播種後の出芽ムラの原因となるため、催芽を終える時は、ハト胸状態になっていることをしっかりと確認しましょう。

（3）適切な播種量で健苗育成！

スケジュールにあわせ、育成する苗の種類別の播種量や出芽方法、育苗日数などを考慮し、適期に播種しましょう。特に、「雪若丸」等の千粒重が重い品種は、適切な播種量となるよう播種機を必ず調整します。

各品種とも葉や葉鞘が伸びすぎず、葉齢が揃い、下葉まで葉色が濃く茎の太い丈夫な苗を育成しましょう。

苗の種類と播種量、育苗日数の目安

	葉数 (枚)	播種量 (g/箱)		育苗日数 (日)
		乾籾	催芽籾目安	
稚苗	2.2～2.5	150～180	180～210	20～25
中苗	3.2～3.5	80～120	100～150	30～35

（4）育苗床の地温を確保！

毎年、地温が低い苗床に苗箱を並べたことで、出芽不良を引き起こしている事例が見られます。育苗ハウス等は早めに準備して、苗床を十分暖めてから苗箱を並べましょう。特に、無加温出芽では、しっかりと苗床の地温を確保した上で苗箱を並べ、適切な被覆資材の使用やきめ細かな温度管理で、良好な出芽揃いを確保しましょう。

STOP!農作業事故 農作業事故防止運動春季強化期間(4/10～6/10)